

転 → 展 → 天職

回り道をして
つかんだ
働く充実感

Number 89

M.Tanigami



ホテルのホスピタリティを異業種にも伝えたい

「おい、業界にすごいやつがいるらしいぞ」といううわさは瞬く間に広まった。

それは二〇〇〇年、まだインターネットでのホテル予約が本格化する前のこと。浦安プライトンホテルに勤務していた江澤博己さんは、ほぼ一人でネットを使った宿泊インフラの構築に着手。「高単価を稼ぎ出すシステム」で、ネットによる宿泊比率を首都圏でナンバーワンに導いた。

に値段をアップするというアイデアを考案。予約システムに反映させ、周囲を驚かせた。

この一年後、江澤さんは退社を決定する。「会社では自分のフィードで本当の勝負ができない。ホテルだけでなく、さまざまな業界について一〇年以上独学で猛勉強したことを、外で試したかったんです」。仕事とは、今できること、今やらなければならぬことをこなすことだ。でも、やりたいことを実現するためには飛び出すしかないと思った。

自ら考えた肩書は「フリーランスホテルエ」。フリーになれば、複数のホテルで同時に働ける。「ホテルマンのキャリアパスとして、フリーという道もありうる」ということを証明してみたかった。

初は単発の仕事しかなく、講演や人事研修で食いつないだが、一年後には「プロのホテル経営指南師」として引っぱりだこに。都内の一流ホテルにコンサルタントとして抜てきされたのがきっかけだ。ホテルのラウンジでコーヒーを飲みながら周囲を観察すれば、経営内容が見えるようにまでなった。

まさま。ホテルというホスピタリティビジネスのコンテンツを異業種にも導入しようと考え、レストランや病院とも契約した。

そしてたどり着いたのが「サービスのプロ」になること。どんな仕事にもついて回るのがサービスだ。サービスを仕組み化して提供するサービスコンサルティングをメインの仕事として取り組むことにした。

今、力を入れているのはウエディング情報サイト会社のコンサルティングと、台湾でのウエディング事業。台湾の資本家に声をかけられ、今年六月、台湾にはこれまでなかったゲストハウススタイルの結婚式場をオープンする。近く中国・上海にも進出する計画だ。

「海外に出ると、日本のサービスがいかに素晴らしいか誰でも実感するはず。その仕組みをアジアへ輸出していく。これが僕の夢なんです」

文・中島恵

好きな仕事なら一生懸命できる
それが僕にとっては
「サービス」だった

江澤さんの評判を聞きつけた商社や銀行から講演の声がかかる。「顧客満足」「社員のモチベーションアップ」などテーマはさ

職業
ホテル企画・広報・マーケティング担当
↓
サービスコンサルタント

名前

えざわ・ひろき

江澤博己さん
(34歳)

年収

前職 400万円

現在 1200万円

家族構成

独身

生活の変化

とにかく時間が足りないこと。独立して時間が有限であることをひしひしと実感した

周囲の声

「誰もやらなかったことを一から実行している。すごいね」と友人や知人から

1970 千葉県生まれ
1989 千葉県の高校卒業
1990 東京ベイホテル東急入社 ベルボーイとなる
1993 浦安プライトンホテル入社

2000 企画・広報・マーケティング担当
2002 退社 フリーランスホテルエとして独立
2004 チームラボ サービスコンサルティング設立